

総合福祉研究発表

専門教育科目 / 4 単位 / TS 授業

担当教員 三宮 基裕

◆参考テキスト

木下是雄「レポートの組み立て方」ちくま学術文庫
古郡延治「論文・レポートのまとめ方」ちくま新書
久田則夫「社会福祉の研究入門」中央法規
江川 純「レポート・小論文の書き方」日本経済新聞社

講義概要・一般目標

本科目は、3年次または4年次において履修するものとし、スクーリング時の発表資料の基礎作業を行うものである。スクーリング「総合福祉研究Ⅰ」～「総合福祉研究Ⅲ」が主として共同討議・グループワーク、KJ法の活用、発表技法の開発・工夫等を通して課題の深まりを追求することとは異なり、個々人の興味・関心のある課題について、独自の考察、まとめ方を学習するものである。

問題意識とテーマ設定、問題への接近方法（分析視点等）、展開・考察の仕方、結論の導き方・まとめ方等の小論文・レポートの作成プロセスを中心に学習するものである。スクーリングの基礎資料として、各人それぞれのテーマについて的小論文をA4用紙4枚程度（約6,000字）にまとめて、その「要旨」（A4用紙1枚、スクーリング時に全員に配布）とともに指示された日時までに提出するものとする。

到達目標

下記の(1)から(4)までの各項目が記述内容に明確に反映するように、小論文・レポートを作成することができる。

(1) **問題意識とテーマ設定**：取り扱う問題の背景が理解でき、その問題を究明するための中心課題（テーマ）が適切に表示できる。

(2) **問題への接近方法（分析視点等）**：先行研究などを参考にして、当該問題の諸要因を把握するための視点を自覚的に設定し、その視点に基づいた方法に従って諸要因を分析し、その結果を記述できる。

(3) **展開・考察の仕方**：結果を解釈し、課題に対応した考察を行うことができる。

(4) **結論の導き方・まとめ方**：考察によって明らかにされた当該問題の結論を提示し、課題に対応した提案を行うことができる。今後の研究課題を含めて、論文・レポート全体をまとめることができる。

評価方法

T部分：提出レポート。

S部分：出席状況（遅刻・欠席は不可）、受講態度、科目単位認定試験（スクーリング最終日に実施）。

学習指導

1. 「事前レポート」およびその「要旨」の提出

社会福祉のそれぞれの科目で学んだことはもとより、現代的課題に応えたすぐれた実践に学んだこと、また、「総合福祉研究のスクーリング」で学んだこと等からテーマを絞り「レポート作成要領」「レポート要旨の書式」に従い作成

レポート字数：A4用紙4枚程度

要旨字数：A4用紙1枚

提出期限：スクーリング約2週間前（詳細は後日お知らせします）

※「レポート作成要領」「レポート要旨の書式」は別途送付いたします。

2. スクーリング時の研究発表

- ①「事前レポート」の内容について意見交換
 - ・「要旨」を用いて、1人5～10分程度、口頭で発表する
 - ・発表の内容について、全員で10分程度、意見交換をする
- ②「事前レポート」の内容についてプレゼンテーション
 - ・スクーリング中に、レポートの内容についての発表資料を作成する
 - ・作成した発表資料を用いて、1人10～15分程度、発表する
 - ・発表後は、5分程度の質疑応答の時間をとる
 - ・発表は、原則、パワーポイント等のプレゼンテーションソフトを使用する
 - ※パソコンは、原則、各自持参すること
 - ※プロジェクターはVGAまたはHDMI接続に対応したものを本学で準備
 - ※アダプタが必要な場合は各自で準備すること

3. その他注意事項

- ①スクーリング時の準備物について
 - ・スクーリング期間中に発表資料を作成するので、「事前レポート」の執筆に使用した資料や関係のある資料を準備しておいてください
 - ・発表資料の作成やレポートの修正のためにパソコンは各自で持参としますが、持ち込みが難しい場合や、パワーポイントなどのプレゼンテーションソフトが入っていない場合は、大学のパソコンを貸し出します
 - ・データのやり取りができるように、USBメモリを持参してください
- ②レポート、評価方法について
 - ・提出していただいた「要旨」はスクーリング時に受講者全員に配布します
 - ・「事前レポート」は、添削のうえスクーリング期間中に返却し、指定の期日までに修正して再提出してもらいます
 - ・再提出した「事前レポート」、発表資料の内容、発表の仕方などにより、総合的に評価します。なお、発表時の評価にはスクーリング受講者の相互評価も含めます